

我がまち魅力再発見 VOL.1

コロナ期以降、「観光」のこれまでが、世界的に覆された今、「地元の人が地元を知る」動きが活発化しています。そこで、地元の魅力を再発見するために、南さつま市にゆかりのある方々に記事作成に協力していただくこととしました。その第1弾は、坊津町出身で登山ガイドとして高いスキルをご夫婦で持ち、2020年9月から坊津町で田舎暮らしを満喫され、NPO法人坊津やまびこ会・坊津山岳楽友会で活動されている畑田智明さんにご協力を頂きました。

南さつま市の山の魅力

文：畑田 智明氏



日本人はたいがいふるさとを山を持っている。山の大小遠近はあっても、ふるさと守護神のような山を持っている。その山を眺めながら育ち、成人して故郷を離れても、その山の姿は心に残っている。どんなに世相が変わっても、その山だけは昔のまま、温かく帰郷の人を迎えてくれる。

冒頭の一文は「日本百名山」の著者深田久弥氏が、彼の故郷の「白山」のページに書き記したものです。皆さんにもピンと思いつく山があるのではないのでしょうか。

例えば、こんな山々：

金峰町や加世田の方なら「山」の文字のように尖った峰々が美しい美女の寝姿に例えられる「金峰山」。また、たおやかな稜線を伸ばす「長屋山」。大浦町の方なら天を突く岩峰「磯間嶽」。笠沙の方ならどこから見ても美しい「野間岳」でしょう。さらに東シナ海の展望台「亀ヶ丘」も忘れてはいけません。

坊津方面を詳しく：

私の住む坊津町は、各地区が山で隔たれているため同じ山を仰ぎ見ることはありません。枕崎に近い栗野では「開聞岳」。坊泊は「車岳」、清原あたりは「草野岳」。尊牛山「車岳」。久志地区は、小中の校歌にも歌われた「尊牛山」「車岳」「陣が岳」です。

特徴は、四季を通じて緑を落とすことのない常緑広葉樹の山で、関東や東北の山々では決して見ることのない光景なのです。

南さつま市の山々は：

「金峰山」と「野間岳」は、古来より信仰の山であり古事記、日本神話のニギノミコトやコノハナサクヤヒメなどの伝説と信仰の山とされてきました。

この両山は、たおやかで危険がないゆえに麓の人々の信仰と行楽の山となってきたのでしよう。

そして今、登山愛好者の間で「最恐低山」として注目を集めているのが「磯間嶽」。九州の山では珍しく険しい岩稜帯を三時間ほど縦走し、最後の磯間嶽は、ほぼ垂直な岩場を登る、まるでミニアルプスとも言えるスリリングな山なのです。

私の地元では：

私は、加世田高校を卒業した後、関東でサラリーマン生活の傍ら、日本百名山の登頂を楽しみ、それが高じて公益社団法人日本山岳ガイド協会の認定登山ガイドとなりました。昨年、リタイアとともに坊津に移り住み、最初に手掛けたのが、住んでいる「今岳」の神社への荒廃した参道の整備です。「亀ヶ丘」から見ると、左下に天を突くように尖った山があります。それが「今岳」です。また、リアス式海岸の深い入り江を持つ坊泊湾と久志湾を隔てる「草野岳」から「尊牛山」「車岳」、そして丸木崎展望台への縦走

ルートを整備し「(仮称)坊津アルプス」としてネットで公開したところ、コロナ禍の閉塞感から県外に出られない多くの登山愛好者が登ってくれるようになりました。



磯間嶽

車岳からの眺望
(坊津アルプスの目玉)

山を楽しもう：

南さつま市は、見渡せば美しい山々に囲まれています。九州の山には熊がいないため特に大きな危険がありません。ウォーキングの代わりに、時にはこれらの山に登ってみることをお勧めします。間違いない吹上浜と東シナ海、桜島に開聞岳など感動の展望が待っています。ぜひ、ふるさとの山を楽しんでみて下さい。きつと石川啄木の「ふるさとの山に向かひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな」という思いを実感されることでしょう。

観光協会より

昨年、畑田さんのガイドで、磯間嶽の岩稜ルート登山を体験。ロープワーク等、経験豊富な畑田さんの知識とスキルで、安心安全に山の魅力を堪能。山岳ガイドや豊かな人間力で、各方面から注目されている畑田さん。ご自身のITやSNSで常に情報発信されています。興味がありましたらぜひのぞいてみて下さい。